

北海道大学が COI『食と健康の達人』拠点の 岩見沢市における低出生体重児減のプロジェクトで 第3回日本オープンイノベーション大賞 日本学術会議会長賞を受賞

【概要】

国立大学法人北海道大学(以下、北海道大学)は、北海道大学 COI『食と健康の達人』拠点*¹において取り組んでいる「低出生体重児減を実現した岩見沢市・北海道大学の産学地域共創プロジェクト」で「第3回日本オープンイノベーション大賞 日本学術会議会長賞」を受賞しました。

【賞の概要】



イノベーションの創出を巡る国際的な競争が激化する中で、研究開発等の成果を迅速に社会実装し、社会的ニーズの解決や新たな価値の創造につなげるために、組織の壁を越えて知識や技術、経営資源を組み合わせ新しい取組を推進するオープンイノベーションが注目されています。我が国のオープンイノベーションをさらに推進するために、今後のロールモデルとして期待される先導性や独創性の高い取組を内閣府が「日本オープンイノベーション大賞」として表彰しています。

【受賞内容】

研究課題

低出生体重児減を実現した“岩見沢市・北海道大学の産学地域共創プロジェクト”

受賞者

北海道大学

北海道大学 COI『食と健康の達人』拠点

吉野正則（北海道大学 COI 拠点長，株式会社日立製作所シニアプロジェクトマネージャ）

玉腰暁子（北海道大学 COI 研究リーダー，北海道大学大学院 医学研究院 教授）

武田安弘（北海道大学 COI 副拠点長，森永乳業株式会社 執行役員 食品開発研究所長）

馬詰武（北海道大学病院 産科 助教）

岩見沢市

永井亘（岩見沢市 健康福祉部 部長）

授賞式 令和3年2月25日(木) 虎ノ門ヒルズフォーラムにて開催

【プロジェクトについて】

概要	少子化の課題解決に向けて、市民とともに“母子に一番優しいまち”を目指すプロジェクト。妊産婦から出産、子育てを継続的にフォローする「母子健康調査」により低出生体重児減を実現。また、母子に最適な食のリカーリングサービス、コロナ禍を受けての、在宅・遠隔妊産婦健診・診療を実施。
目的	「少子化社会対策大綱」の、地域での母子・子育てに温かい社会の実現と、ICT活用によるケア・支援、SDGs 目標3「すべての人に健康と福祉を」の達成を目指す。
内容	妊産婦の便・血液、臍帯血、母乳と、乳幼児の便等を試料（ビッグデータ）として、母から子への影響を網羅解析し、低出生体重児を予測。母子健康調査の知見に基づき、自治体と企業が一体となり、個人に最適な食を届けるとともに、デジタルでケアを行う。妊産婦と医療機関を診療機器とビデオ会話で結び、自宅での出産準備を可能とし、妊産婦、医療者の感染リスクを低減。
効果	低出生体重児減（2015年 10.4%→2019年 6.3%）を実現。日本初の在宅・遠隔妊産婦健診・診療、処方箋宅配を開始。母子サービス・ケアと継続サービスで、5年後 200億円以上の経済効果を見込む。

【受賞者のコメント】

北海道大学 COI 拠点長、株式会社日立製作所シニアプロジェクトマネージャ：吉野正則

岩見沢市、大学、企業、そして市民の努力が、低出生体重児を減らすことに繋がったと考えています。今後も、今ひとりひとりが自分らしく生きていける Inclusive な社会の実現に向けて、さらに多くの方と共感のイノベーションを創っていきたいと思います。

北海道大学 COI 研究リーダー、北海道大学大学院 医学研究院 教授：玉腰暁子

ともに歩んできた、筑波大学、北里大学、九州大学、慶應義塾大学の先生方、株式会社日立製作所、森永乳業株式会社をはじめとする企業の皆さまに加え、岩見沢市が実践の場として存在する意義を改めて感じます。子どもたちが希望に満ち、女性も男性も生き活きと暮らせる社会に向けて、今回の受賞を次の一步を踏み出すきっかけにしていければと思います。

北海道大学 COI 副拠点長、森永乳業株式会社 執行役員 食品開発研究所長：武田安弘

産官学連携、岩見沢市からの強力な支援と市民・医療関係者のご協力により、今までに類を見ない「母子健康調査」を推進・定着でき、母子と情報・課題の共有を実装し行動変容につながりました。さらに、腸内環境から母の健康と子どもの成長に影響する知見が得られつつあり、民間企業だけではできない活動の広がりや成果を感じます。このような輪が水平展開できれば我が国の課題の一つ一つが克服できると思います。

北海道大学病院 産科 助教：馬詰 武

日本で最初の大規模な周産期オンライン診療の実施に際しては、COIの皆様や北海道庁をはじめ多くの関係者のご協力をいただきました。コロナ禍で広まった新しい診療形態のノウハウを活かして、感染妊婦が安全に自宅療養できるシステムの構築など、これからも社会の役に立つ取り組みを続けていきたいと思っています。

岩見沢市 健康福祉部 部長：永井 亘

組織の壁を越え、力をあわせて取り組んできたことが、今回の受賞に繋がったものと思います。今後も「これから生まれ育っていく未来の子どもたちによりよい環境をつくって行けるよう」皆様とともに頑張っていきたいと思います。

お問い合わせ先

北海道大学産学・地域協働推進機構 FMI 推進本部

T E L 011-706-9602 F A X 011-706-9607 メール coi-office@fmi.hokudai.ac.jp

U R L <https://www.fmi.hokudai.ac.jp/coi/>

岩見沢市 健康福祉部 健康づくり推進課

T E L 0126-25-5540 F A X 0126-25-5524 メール hoken@i-hamanasu.jp

配信元

北海道大学総務企画部広報課（〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール kouhou@jimuhokudai.ac.jp

【用語解説】

- *1 北海道大学 COI『食と健康の達人』拠点 … COI（センター・オブ・イノベーション）は、文部科学省と国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が実施する、産学官連携によって革新的なイノベーションの実現を目指す研究開発プログラム。北海道大学は平成 27 年度から本プログラムに採択され、筑波大学、北里大学、30 社を超える企業・関連機関とともに『食と健康の達人』拠点として活動している。本拠点では、拠点の研究成果や知見を活用した商品・サービスを『食と健康の達人』ブランドとして展開している。

